

福井市地域生活交通活性化会議

平成19年8月29日設置

フィーダー系統

平成26年6月30日確保維持計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

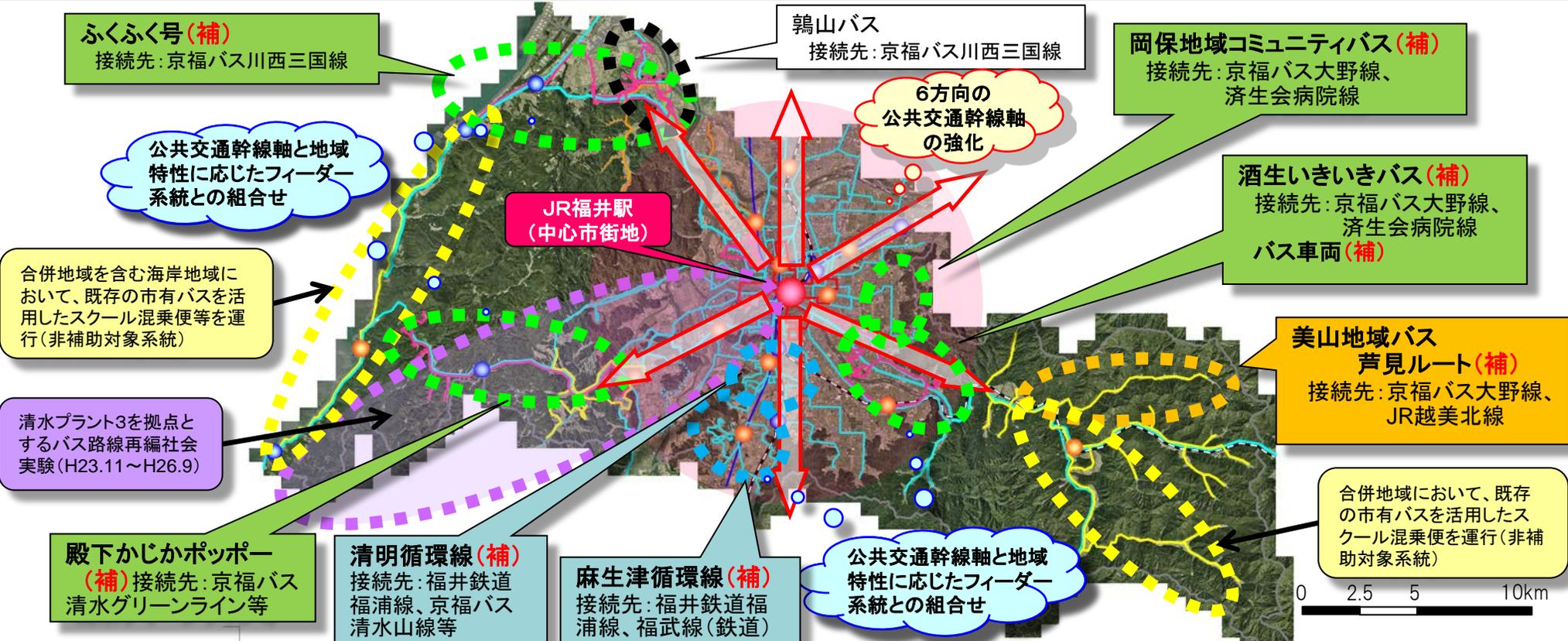
■地域の特性

- JR福井駅前バス乗場を中心に放射状の路線バスネットワークを形成。 ※鉄軌道は、JR北陸線、同越美北線、えちぜん鉄道、福井鉄道が南北・北東・南東方向に運行
- 区画整理等の都市基盤整備が市街化区域の約80%に達し、郊外の幹線道路沿線等において、商業・業務機能や医療機関、公共公益施設等の拡散立地が進展。
- クルマに過度に依存したライフスタイルが市民に浸透、定着。1世帯あたりの自家用車保有率は全国トップクラスで、高齢者(特に女性)の免許保有率も急激に上昇中。

■福井市都市交通戦略※との整合性 ※平成21年2月策定 計画期間:概ね10年間

- JR福井駅を中心とする6方向の公共交通幹線軸と各地域の特性に応じた交通サービス(フィーダー路線等)との組合せによって、市内全域で利便性の高い公共交通ネットワークを構築することを基本目標としている。
- このうちフィーダー路線については、地域住民が主体的に運行計画の作成や利用促進等に取り組むことを基本としつつ、路線バス事業者の自主運行路線の計画変更等も含めて、地域に最も適した手法により、公共交通空白・不便地域の解消やサービス水準の向上を図ることとしている。

➤ **クルマがなくても安心して生活できる、コンパクトで持続可能な都市づくりの推進に寄与**



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

■平成26年度以前

事業名	概要	検討プロセス
岡保地域コミュニティバスの新設 (H25.10運行開始)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の北部と南部とでは生活圏域が異なり、北回り系統と南周り系統の2ルートを設定(隔日運行) 日中、路線バスの空白時間帯を中心に、運行頻度を高め移動利便性の確保・向上を図る 	22年7月～9月:岡保地区住民有志による勉強会を開催 23年9月～:岡保地域コミュニティバス運行協議会を設置 月1回のペースで会議を開催し、運行構想案を検討 24年2月・10月:地域住民へのアンケートを実施 25年5月:運行事業者選定 6月:地域生活交通活性化会議に報告、NW計画に登載
ふくふく号のデマンド型への運行形態変更	<ul style="list-style-type: none"> 効率的かつ継続的にバス交通サービスを提供していくため、定時定路線からデマンド型運行へ形態を変更 	24年12月:地元自治会長と協議 25年2月:地域住民への利用実態アンケートを実施 25年3月:関係者協議を開催 25年6月:地域生活交通活性化会議に報告、NW計画に登載
酒生いきいきバス新型車両購入(H25.11)	<ul style="list-style-type: none"> 本格運行に移行することを受け、小型ノンステップバスを導入 	利用者の乗降時の安全性の確保や利便性の向上、環境負荷の低減を図る必要があることから小型ノンステップバスの導入に至った。

■平成27年度

事業名	概要	検討プロセス
岡保地域コミュニティバスの事業計画の変更	<ul style="list-style-type: none"> 北回りルート:1系統を新設、一部経路変更、実車走行キロ及びダイヤの変更、バス停の新設・廃止・移設・名称変更 南回りルート:3系統を新設 	26年4月～5月:岡保地域コミュニティバス運行協議会において市・交通事業者を交えて協議 6月:地域生活交通活性化会議に報告、NW計画に登載
バス路線「生部みのり線」の再編に係る社会実験	<ul style="list-style-type: none"> 清水プラント3を拠点とするバス路線再編での知見を活かし、市内のバス路線を利用実態に即して再編した。 通勤通学時間帯の直通運行(バス車両)と利用が少ない昼間時間帯のデマンド型乗合タクシー(文殊山号)に再編 	26年8月～9月:地元自治会長と協議 27年1月～2月:地域住民への利用実態アンケートを実施 27年4月～5月:地元及び関係者間での協議 27年6月:地域生活交通活性化会議に報告

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

■NW計画に定める目標の達成状況

- 数値目標を達成したのは酒生いきいきバスのみであるが、利用者数の実績としては全体的に増加傾向である。
- 美山地域バスの利用者数が減っているが、固定利用者の減による影響と考えられる。
- フィーダー系統として、路線バスや鉄道への乗継利用のほか、地域住民同士のコミュニティの醸成も増えてきており、地域の高齢者達にとって不可欠な存在になってきているといった意義もある。

●ふくふく号（鷹巣・棗線）

	目標値	実績値	評価	前年度
①年間利用者数	3,300人	3,072人	△	2,639
②利用者1人あたり行政負担額	1,800円以下	1,804円	○	2,140

●麻生津循環線

	目標値	実績値	評価	前年度
①年間利用者数	7,900人	7,020人	△	6,190
②乗継切符販売数	30枚/月	17枚/月	△	16

●酒生いきいきバス

	目標値	実績値	評価	前年度
①年間利用者数	8,900人	9,328人	○	7,965
②乗継利用の割合	45%	52.2%	○	39.4

※利用者アンケートにおける路線バスへの乗継の割合

●清明循環線

	目標値	実績値	評価	前年度
①年間利用者数	12,000人	12,946人	○	11,666
②乗継切符販売数	20枚/月	6枚/月	△	5

●岡保地域コミュニティバス

	目標値	実績値	評価	前年度
①年間利用者数	9,000人	8,234人	△	6,216
②利用者の満足度	4以上	4.3	○	4.1

※利用者アンケートにおける満足度（5点満点）

●美山地域バス

	目標値	実績値	評価	前年度
①年間利用者数	610人	341人	△	451
②利用者の満足度	4以上	4.7	○	3.5

※利用者アンケートにおける満足度（5点満点）

●殿下かじかポッポー

	目標値	実績値	評価	前年度
①利用者1人あたり行政負担額	1,200円前後	1,489円	△	1,236
②乗継利用の割合	50%	60.0%	○	42.2

※利用者アンケートにおける路線バスへの乗継の割合

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

- **利用が少ない地域への利用の促進(ふくふく号、殿下かじかポッポー)**
 - …利用が見込める地域への延伸も含め、利用が少ない地域への周知広報による利用促進を行う。
- **利用者への影響を最小限に抑えた合理化(酒生いきいきバス)**
 - …利用が少ない便の見直しや、利用が見込める施設等へ停留所を設置するなど効率化を図る。
- **地域住民への利用機会の拡大(岡保地域コミュニティバス)**
 - …公民館でのイベント等をコミュニティバスの運行時間に合わせて開催することで利用機会を拡大する。
- **沿線の商業施設とのタイアップによる利用促進(清明循環線、麻生津循環線)**
 - …沿線の商業施設等の協力を得て、バス利用者への優遇措置を設けることで、さらなる利用者増を目指す。
- **過疎地域における地域住民の足の確保(美山地域バス)**
 - …利用者が少なく、平成28年度以降の補助要件からは外れてしまうが、小学生や高齢者の最低限の移動手段として継続して維持していく必要がある。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

- **岡保地域コミュニティバス**
 - ・ショッピングセンターを経由する便を設定するなど、住民から要望の多かった商業施設への延伸を行った。
 - ・沿線商店の協力によるバス利用者への優遇措置を行った。
 - ・運行ルートを見直すことで、走行距離の効率化を図った。
- **バス路線「生部みのり線」の再編に係る社会実験**
 - ・清水プラント3を拠点とするバス路線再編での知見を活かし、市内のバス路線を利用実態に即して再編した。
 - ・通勤通学時間帯は直通運行(バス車両)を残し、利用が少ない昼間時間帯をデマンド型乗合タクシー(文殊山号)を運行。
 - ・デマンド型乗合タクシーは地区内での便数増や運行エリアの拡大による利便性の向上を目指した。